

ポリマーセメントモルタル

評価の内容（申請資料に基づき、次の事項を確認している。）

1. 評価対象建築材料

評価の対象としたポリマーセメントモルタルは、改修仕様書 4 章 2 節に規定するポリマーセメントモルタルとし、コンクリート打ち放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁およびタイル張り仕上げ外壁に適用するものを対象としている。

2. 種類

ポリマーセメントモルタルは、合成高分子エマルジョン（合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系、その他）とする。

3. 品質・性能

(1) 材質

規定された主要資材の材質および資材メーカーから製造所への納入ルートを確認している。

(2) 性能

以下の品質・性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

項目		品質・性能	
だれ	下がり量 (mm)	5 以内	
	表面状態	ひび割れの発生が無いこと。	
曲げ強さ (N/mm ²)		6.0 以上	
圧縮強さ (N/mm ²)		20.0 以上	
接着強さ (N/mm ²)	標準条件	1.0 以上	
	特殊条件	湿潤時	0.8 以上
		低温時	0.5 以上
透水性		裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。	
その他		1. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2. 高分子エマルジョンは、常温常湿において製造後 6 か月保存して変質しないこと。	
〔付帯性能〕	接着耐久性 (N/mm ²)	1.0 以上	
	透水量 (ml/hr)	0.5 以下	
	吸水量 (g)	20.0 以下	
	長さ変化率 (%)	0.15 以下	

ポリマーセメントモルタル

4. 試験方法

- (1) だれの試験方法は、JIS A 5371 (2016)「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N300 の表面をワイヤブラシ等で清浄し、その上に厚さ 10mm、幅 100mm、長さ 50mm の寸法にポリマーセメントモルタルを塗り付け、塗り付け開始から 5 分後に、平らにおかれていた平板を直角に立て起し、そのままの状態に静置する。24 時間後のポリマーセメントモルタルの変形状態を観測し、その形状の異常の有無とだれ長さを測定する。
- (2) 曲げ強さ、圧縮強さの試験方法は、JIS A 1171 (2016)「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の 7.3 による。
- (3) 接着強さの試験方法は、JIS A 5371 に規定する普通平板 N300 の表面をワイヤブラシ等を用いて清浄し、その上に厚さ 10mm になるようポリマーセメントモルタルを塗り、14 日間経過した後に、その上面に縦 40mm、横 40mm、厚さ 10mm の鉄片を張り付けて単軸引っ張りを加える。
最大荷重 (P) を断面積 (A) で除し、接着強さを求める。

接着強さの養生は、下表による。

項目		舗装用平板の養生	
		塗り付け前	塗り付け後
標準条件		温度 20±2℃、湿度 65±10%	温度 20±2℃、湿度 65±10% で 14 日間
特殊条件	湿潤状態	温度 20±1℃の清水中に 24 時間浸漬	温度 20±2℃、湿度 65±10% で 14 日間
	保温状態 *	温度 5±1℃で 24 時間	温度 5±1℃で 14 日間

*低温時では、平板同様に試料も低温状態で養生を行う。

- (4) 透水性試験は、JIS A 5430 (2018)「繊維強化セメント板」の 8.6 に規定する方法による。試験体の形状は、厚さ 10 mm、幅 300 mm、長さ 300 mm (内寸法) の型枠に、製造者の定める方法によりポリマーセメントモルタルを充填し、24 時間静置した後脱型する。その後、標準状態で 8 日間養生する。
- (5) 接着耐久性試験 (温冷繰返し後) は、JIS A 1171 の 7.5 による。
- (6) 透水量試験は、JIS A 6916 (2021)「建築用下地調整塗材」の 7.15 による。
- (7) 吸水量試験は、JIS A 1171 の 7.6 による。
- (8) 長さ変化率試験は、JIS A 1171 の 7.8 による。
- (9) 試験室の状態は、温度 20±2℃、湿度 60%以上とする。